

「わたしのいもうと」を図工で守る

masunaga@s.email.ne.jp



松谷みよ子さんの「わたしのいもうと」という作品があります。担任した学級では、学級開きでこの本を読み聞かせをします。みんなでいじめはぜったいに許されないことだということを考え、担任も許さないという姿勢

を示します。また、軽い気持ちで始めたいじめによって命までも奪ってしまうことがあるということを知らせます。

この本のストーリーは、ご存じだと思いますが、簡単に紹介します。転校をきっかけに「いもうと」が陰湿ないじめにあいます。理由もないのに無視されたり、汚いと言われたりします。ある日から学校に行けなくなり、笑顔もなくなりました。

やがて中学生になり高校生になり、いじめた子たちは、そのことも忘れたように毎日を明るくすごします。妹は、食事ものどを通らなくなり、やっと命をつないでいました。そしてひっそりと死んでしまうというものです。

2 実践について

今回の実践は、学級開きでの読み聞かせを發展させ、主人公とかかわりながらいじめについて考えていこうとするものです。ちょうど4年生の図工に、「主人公になって」という単元があります。この単元に若干アレンジを加え、「わたしのいもうとを図工で守る」としました。

- ① 「わたしのいもうと」を準備します。できれば学級文庫に常備したい本です。
- ② 絵を提示しながら読み聞かせをします。
- ③ いもうとを救えるチャンスがあるとすればそれは、どこか考えさせます。また、どんな方法で救うかも考えさせます。
- ④ その場面を絵に表していきます。
- ⑤ 下書きをもとに、デジカメで2枚写真を撮ります。(いもうとと自分)
- ⑥ 背景をパソコンで描きます。
- ⑦ フォトショップエレメンツのレイヤーや合成を使って、作品を仕上げます。
- ⑧ プレゼンを行い、「おもい」を表現します。
- ⑨ 感想を聞き、いじめについてまとめます。

3 この実践のウリ

- ① 素材の質が高いため、それを読むだけでも高い実践となる。
- ② 絵を描くことによって、それぞれが「いもうと」と長く関わるができる。
- ③ デジカメ画像やフォトショップエレメンツを使うことによって絵の得手不得手にかかわらず創作意欲が増す。
- ④ デジタル作品として残すことができるのでいつでも振り返ることができる。
- ⑤ 誰でも、簡単に実践できる。

4 子供たちの感想

私の学級にはいじめがありません。でも、わたしは1回いじめにあったことがあります。その人の家までその人を送り、遊べない用事があってもその人と遊ぶ。5時になっても帰らせてくれないなどの、いじめにあいました。わたしはがんばって「やめて」と言っていじめから逃げられました。

(A)

私は本の中に入っていもうとのかたをさわり、やさしくなやみを聞いてあげたい。そして仲良くしてあげたい。もし、いもうとが死んだとしても、おはかでやさしくおいのりをして、またなやみをきいてあげたい。(B)

いじめにあって亡くなってしまうなんてとてもかわいそうでした。私はいじめをぜったいしません。

5 この実践を通して

この実践を通してわたしが子供たちに感じてほしかったのは、とにかく理屈ではなく、「いじめ」は絶対にダメだというメッセージでした。子供たちが心の底からいじめを拒絶するようになってほしいと考えていました。

4年生という学年、「わたしのいもうと」という質の高い作品、それだけで十分ですが、今回は、一人一人がさらに、しっかりと考えていけるように絵の中にはいっていくという手法をとりました。

子供たちは、全員(絵のきれいな子も)最初から最後まで一生懸命でした。

最後のプレゼンでは、自分の「おもい」を十分伝えることができ、また友だちの「おもい」を知ることでもでき、「いじめ」に対して一層深く学ぶことができました。

「わたしのいもうと」を図工で守る作品例

